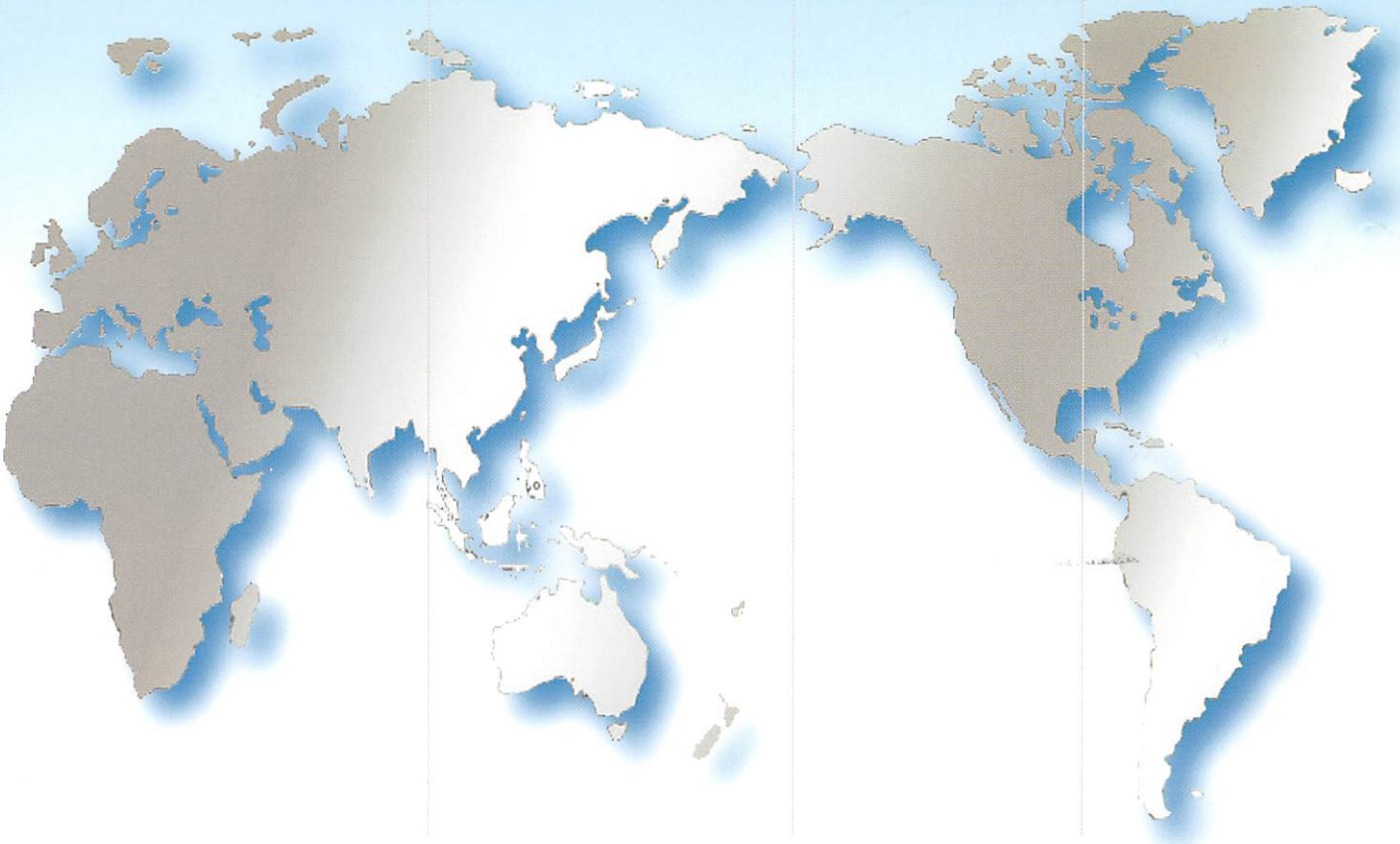
ITC JAPAN REGION



ディビジョンIII

ヨーロッパ '92
グレート ブリテン
アイスランド
ヘレニック

ディビジョンIV

オーストラリアン
日本
ニュージーランド

ディビジョンI

ゴールデン ウエスト
ノースウエスト
シィエラ パシフィック
メキシコ
（コロラド）
（テキサス）

ディビジョンII

ハート オブ アメリカ
ブルー リッジ
サンシャイン
ノースイースト
（マニトバ）

POWER talk INTERNATIONAL

http://powertalkinternational.com/

Volume 31 III
July 2013

Vol.31 No.3 July 2013

目　　次

Table of Contents

今期のテーマ	1	2012～2013 Themes
日本リージョン会長メッセージ（日・英）	2	The President's Message 2012－2013
役員からのメッセージ	3	Messages from Officers
リージョン年次大会特集　役員会年次報告	4	Japan Region Annual Conference Special Edition Annual Report
会則修正案審議結果	5	Amenndments to the Bylaws
講演	6	Lecture
教育セッション報告	7～11	Training Sessions
スピーチコンテスト（日本語）	12	Speech Contest (Japanese)
スピーチコンテスト（英語）	13	Speech Contest (English)
ライティングコンテスト	14・15	Writhing Contest
大会風景	16・17	Annual Conference Report
次期役員・指名委員/次回年次大会案内	18	Japan Region Next Term Officers / Invitation to the next Conference
ITC ニュース　シリーズ No.3	19～21	ITC News, series No.3
カウンスル・クラブ情報	22～29	News from Council & Club
会員情報　～会員を偲ぶ～	30	Member's News　～In Memory of members～
ウェブサイトへのアクセス/編集後記		The access to Japan Region Website/Message from Editor
ITC 宣誓、リージョン声明文		ITC Pledge & Mission Statement of Japan Region

ITC 日本リージョン第31期テーマ

Japan Region Theme 2012—2013

失敗から学ぶ

“Develop Success from Failures”

ITC Theme 2011—2013

Be the Change

あなた自らが変化の主体に

◇短期目標◇

1. クラブ増設と増員
2. ウェブサイトの刷新
3. 国際とのつながり
4. 会員のパワーアップ

◇長期目標◇

クラブ/カウンスル/リージョンの再編成

日本リージョン会長メッセージ

第31期日本リージョン会長　**小菅　あけみ**

ディズニー舞浜でのリージョン大会が無事終わり、テーマ「宝探し」で私が見つけたものは、熱くて強い会員の皆様のパワーでした。この一年、会長として皆様との交わりを通し、ますますITCパワーのとりこになりました。

今、ITCが、そしてPOWER*talk* Internationalが力強く変わろうとしています。クラブでは新入会員を迎えて、クラブの雰囲気が新しく変わったとの嬉しい報告がありました。日本リージョンでは、組織の見直しを通して同年代はもちろん、若い人、学生、男性など、仲間を増やす可能性を工夫しています。

何年か前、スリランカに若者のクラブが誕生しましたが、翌年には会費が払えずに解散したと聞きました。今回のリージョン大会では、学生の会員が参加するための修正案が可決され、リージョン年会費は1,200円、大会登録費は半額に、大会欠席協力金は免除になりました。日本にはアジアからの留学生の人たちがたくさんいますが、この学生たちが、クラブを訪問し、ITCのトレーニングを身につけてくれたら…そして母国に帰った時、仲間と一緒に実践するならば、世界中の相互理解の促進に役立つ一歩となるでしょう。

また、ITCは役を経験しながら学ぶ組織です。日本のような大きなリージョンでは、役割の回ってくる可能性は少ないので、新入会員や若い会員の為には、工夫が必要です。同じ役職を続けないというルールを作るとか、また分割するのも一つのチョイスです。新しいことに挑戦する勇気と、失敗をしてもそこから学び、変化していく日本リージョンであってほしいと願っています。この一年間、リージョンの活動をお支えくださった皆様に深く感謝して、来期の役員会にエールを送ります！

Message from your President

Japan Region President　Akemi Kosuge

The Region Conference turned out to be a great success thanks to the dedicated support of members, with enthusiasm for learning and warm friendship.

POWER*talk* International is now changing in many ways. At this Region conference, we had a good discussion to change our rules to attract more different types of people; young people, students, male members, etc.

Some years ago, one club with young people was chartered in Sri Lanka, but the next year, they couldn't pay the dues. At a business meeting, the amendments to give privileges to students were approved by majority vote. In Japan, there are students from other Asian countries studying in Japanese universities. If we invite them to our club and let them experience our training, they can share it with their people when they return home. POWER*talk* International will then be shared there to achieve greater understanding throughout the world.

Japan Region is the biggest region in the world, and this could prevent newer /younger members from experiencing upper level roles. We could have rules that prohibits members from taking the same position consecutively. Dividing the region could be another solution. I hope we have the courage to change our organization, learning from our failures. Thank you for your kind support for your Region Board!

役員からのメッセージ

リージョン第一副会長として見つけた私の宝ものは…

リージョン第一副会長／プログラム・教育委員長　**杉谷　和代**

今期あなたの宝ものは見つかりましたか？
日本リージョンに新しい風を吹き込むことが出来ないだろうかと考え8名の委員と懸命に活動してまいりました。カウンスルをまたがって構成される委員会は、開催の費用と時間と労力の削減のため対面委員会とスカイプ委員会を効率よく組み合わせた新しいスタイルの委員会活動が実現できました。これは新しい風の一つでしょう。また、目標の一つである出前講座を、早期に準備をすることによって昨年の倍以上開催し、継続してクラブ、カウンスルとリージョンの繋がりを強くすることができたと思います。しかし教育分野によりきめ細かい配慮をする時間が少なかったことは今後の課題でしょう。もう一つの目標、ワークショップリーダーの養成の奨励がありました。このことはリージョン大会で会員によるワークショップを6枠設けることにより、日本リージョンに新しい風を吹き込むことが出来たとすれば幸いです。今後は、クラブやカウンスルでも大いに会員のワークショップを実現する機会が増えるよう期待するところです。リージョン役員会の一員として国際と率直な交流を保ったこと、委員会は一年間休むことなくリージョン大会成功に向けて全身全霊で活動出来たこと、カウンスルを超えてクラブ、カウンスルの皆様と交流が出来たことは私の宝物として大事にして行きたいと思っております。
皆さまもきっと素晴らしい宝物を見つけられたことと信じております。

PREM活動を振り返って

リージョン第二副会長／PREM委員長　**松本　敬**

各カウンスル第1回会合において「リーフレットコンテスト」の開催と「つぶやき箱」の設置をお願いしました。予想以上に素晴らしいリーフレットが集まり、感激しながら見せていただき、各クラブへの愛情を深く感じました。新入会員誘致に非常に役立ったとの報に、何より嬉しく思いました。「つぶやき箱」もみなさんからの声が沢山届いて、役員一同参考になりました。それぞれの会員が何を考えているかを知るうえで、来期に向けてとても役立つ箱でした。

1月には花巻クラブの増設、4月にはバイリンガル西条クラブの増設があり、東へ西へと役員一同うれしい悲鳴をあげて忙しく走りました。花巻クラブは働く人を中心に夜の会合、バイリンガル西条クラブは留学生や在日外国人も交え、国際交流を通してコミュニケーションを学ぶクラブ、と2クラブとも今までに無かった新しいタイプで、変化していく時代にいち早く対応し、必要性に合わせて柔軟性を持ったクラブです。

PREM委員が集めた日本のクラブの情報をリージョンメールにシリーズで掲載、その原稿を毎回英訳して国際に送りました。「日の丸」入りでPower Lineに掲載され、国際HPで全世界に配信されています。これだけ毎回Power Lineに日本からの記事が掲載されるのは初めてで、喜ばしいことです。

これからのPREM活動はITCの組織内だけでなく、社会への発信を活発にして、社会に受け入れられる活動をすることにより、ITCの活動を高めていくことも大切だと感じています。全国各地のクラブの素晴らしさを実感した一年でした。

第31回日本リージョン年次大会特集

第31期 ITC 日本リージョン役員会年次報告
2012年 8 月 1 日～2013年 7 月31日

第31期日本リージョン書記　**鎮守　康栄**

第31期日本リージョン役員会は、テーマ「失敗から学ぶ」のもと、長期目標に「クラブ、カウンスル、リージョンの再編成」を掲げ、短期目標である「クラブ増設と増員」「ウェブサイトの刷新」「国際とのつながり」「会員のパワーアップ」を目指し、以下の活動を行った。

1．クラブ数・会員数の状況
日本リージョンは今期 8 カウンスル、78クラブ、会員1,235名で始まった。
6 月15日現在　クラブ数80クラブ、会員1,315名である。新入会員数は97名。

2．研修会報告
(1) カウンスル運営研修会（CMT）は2013年 6 月 3 日東京ベイ舞浜ホテルクラブリゾートに於いて、10部門で行われた。
(2) トレーニング パワー パック（TPP）は 6 月 3 日、公式訪問者 Carol Preiss ITC 会長により行われた。
(3) トレーナー研修は 6 月 3 日、5 人のフェローオブ ITC が参加して行われた。
(4) 年次大会の評価は 6 月 5 日年次大会終了後、公式訪問者 Carol Preiss ITC 会長により、31期日本リージョン役員、議会法規役員と大会準備委員長を対象に行われた。
(5) 評価後、公式訪問者により、日本リージョン新役員を対象にリージョン運営研修会（RMT）が行われた。

3．主たる活動
(1) 役員会は現在迄に21回開催した。内15回は SKYPE で行った。
(2) 役員は 8 カウンスルの第一回会合に公式訪問を行い、リージョンの方針を伝えた。
(3) リージョン会報は年 3 回発行を予定し、全会員に第 1 号、2 号を配布した。第 3 号は 7 月に配布予定である。
(4) リージョンメールは 2 ヶ月に 1 回配信し、添付方法を工夫して読みやすくした。
しかし年々メールが多くなる傾向で、メール送信方法が今後の検討課題である。
(5) 会長は国際役員会にリージョン会長報告書を 2 回提出し、残り 1 回を提出予定。
(6) **クラブ増設と増員**：① 1 月には No.8 に花巻クラブが、4 月には東広島市にバイリンガル西条クラブが増設され、リージョン全体としては97名の増員があった。
②若い人の増員を考慮して、役員会は年次大会に会則修正案及び決議案を提出した。
(7) **ウェブサイト**：リージョンホームページの充実を図り、和訳教育資料はすべてダウンロードできるようにした。
(8) **国際とのつながり**：①国際からの情報は、翻訳委員会や担当委員会による和訳をつけ、クラブに配信し HP にも掲載した。パワートーキングは全訳を掲載。パワーラインズには日本リージョン PREM 委員会から毎月記事を発信した。
② IMSが 危機的状況にあり「国際財務状況検討委員会」を立ち上げて会員と国際の間のコミュニケーションを図った。
(9) **会員のパワーアップ**：①出前講座を14回実施し、クラブのレベルアップに貢献した。
②「マスターマニュアル検討委員会」を立上げ、新入会員のための入門編を作成した。
(10) 地域への発信：クラブ、カウンスルが主催した小・中・高校生対象のスピーチコンテストの助成を行った。

第31期日本リージョン年次大会は2013年 6 月 3 日、4 日、5 日の 3 日間、大会テーマ「宝探し」のもと、東京ベイ舞浜ホテルクラブリゾートに於いて開催した。大会中のみならず、この一年を通じて会員、役員ともに多くの素晴らしい宝を探し当てたことを報告する。

日本リージョン会則・常規修正案及び決議案の審議結果報告

会則・決議委員長　**坂口　正子**

第31回日本リージョン年次大会において審議された会則・常規修正案および決議案の審議結果は下記の通りです。下線付き太字の部分は修正された箇所です。

修正案1　否決

よって、

修正案2から**修正案6**までは、否決された修正案1の関連条項につき審議されませんでした。

修正案7　否決

修正案8　修正されて可決

常規4. 旅費

役員及び委員長**と委員**の公式任務に関する旅費は、新幹線及びその他の最低往復旅費が**予算内で**支払われるものとする。

修正案9　修正されて可決

会則12. ジーニスクラブ

会則12.2. ジーニスクラブが成立しない場合、学生の会員として近隣クラブが受け入れることもできる。この場合、ジーニスクラブに基づいた方法でクラブ活動を行うことができる。学生の会員とは高校生、大学生をいう。

修正案10　修正されて可決

常規2.1. 年会費

年会費は会員1名につき5,000円とする。2つ以上のクラブに所属する重複会員は、1名分のリージョン年会費を最初に入会したクラブを通じて納める。**ただしジーニスクラブ会員と学生の会員は1,200円とする。**

修正案11　修正されて可決

常規3. 大会登録費

リージョン大会に際し会員は重複会員を含め、1名につき1名分の大会登録費若しくは欠席者協力金を納める。**ただしジーニスクラブ会員と学生の会員は大会登録費をその半額とし、大会欠席協力金を免除する。**

決議案　否決

講演 Lecture

「指揮者とコミュニケーション」

プログラムリーダー　**村本かをり（東山）**

大会三日目の講演は、指揮者の西本智実氏をお招きして例年の講演とは少し趣を変え、インタビュー形式で行われました。ご存知のように西本氏は日本のみならず、ロシアをはじめヨーロッパ各地、アメリカやアジア諸国と、まさに世界で活躍する超多忙な指揮者でいらっしゃいます。ダボス会議を主催する「世界経済フォーラム」のヤング・グローバルリーダーにも選ばれるなど数々の栄誉にも輝いておられます。

オーケストラを指揮するあのカッコイイ西本氏を客席から拝見することはできても、間近でお話を伺う機会はそうは有るものではありません。

準備の段階から関係者の方々、勿論私もかなりの緊張感に包まれておりました。

オープニングは会場2箇所にある大スクリーンに“ボレロ”の音楽とともに指揮をとる西本氏の姿が映し出されるという演出で、これでまず満席の会場の皆様を西本ワールドに惹きこむことができたのではないでしょうか。

会場が明るくなり、いよいよご本人が万雷の拍手を浴びて颯爽と登場。

インタビュアーは、阪神クラブの広瀬忠子さんと横浜クラブの橋爪明子さんでした。

第1部は広瀬さんがお相手を務め、西本氏のお小さい頃のこと、指揮者を志されたきっかけやロシアへ留学された頃の思い出話などを中心に語っていただきました。

「智実ちゃんとは昔からの知り合い」とおっしゃる広瀬さんのおかげでしょうか、リラックスしてにこやかにお話が進み、会場も和やかな雰囲気に包まれました。

そして、再び4分間余西本氏が指揮するオーケストラのDVDが流れ、第2部の橋爪さんのインタビューが始まりました。彼女の多岐にわたる質問に、表情豊かに応えられました。各国のオーケストラや聴衆との関係、指揮者として体力を鍛えねばならないなどの苦労話、オフの時の普段の生活ぶりや、果てはお化粧にいたるまで飾らず応えて下さいました。インタビューを通して、その気取らぬ爽やかなお人柄に好感をもたれた方も少なくないでしょう。どこから見ても魅力的な女性でした。

プログラムリーダーとして最後のお礼の言葉を述べたとき、私の目をしっかり覗き込むようにして聞いてくださる西本氏の姿勢に、「これぞコミュニケーションの基本」と改めて教えられた思いがいたしました。ITCの会員に対して最後に述べられた「完成を目指して、一つ一つの努力を積み上げてゆくことこそが大切」という言葉は西本氏の人生観なのでしょうか、印象に残る言葉でした。

充実した素晴らしい1時間半を皆様とともに過ごせたことに感謝。

教育セッション1

教育セッション A　声をブラッシュアップ！！～より素敵な声を目指して～

八百谷和子（鳥取）

プログラムリーダー　下手　泰子（出雲）

「自分の声を好きですか？」という問いかけに「大好きです。」と即答できる人は少ないと思います。録音した声を聴くと、自分が思っている声と全然違うと思った経験もあるのではないでしょうか。それに、「声が小さい」「滑舌が悪い」「怒ってないのに怒っているように思われる」などなど、悩みというには大げさでも、もっと素敵に話したいと思っている人は多いと思います。

プロのアナウンサーでコミュニケーションプロデューサーの八百谷和子リーダーによるワークショップは、楽しく実践的にこの「声の出し方」について学ぶことができました。体を楽器としてとらえ、息の使い方を訓練すること、日頃の少しの心がけや練習で格段にきれいな心地よい声に“ブラッシュアップ”することができると教えていただきました。講師の豊富な経験と訓練に裏打ちされた指導に、時に体を動かし、発声法、呼吸法を学び、楽しくかつ実りのある充実したワークショップでした。

教育セッション B　“Successful Evaluation”　「成功型評価」

Carol Preiss（ITC会長）

プログラムリーダー　奥田小夜子（錦）

キャロル プレイス国際会長は、役員として務めることのほか「私の大好きな課題はワークショップリーダーです。」と述べておられるように、分かり易く示唆に富んだワークショップであった。「人をあるがままに扱えば、その人はそのまま変わらない。しかし、もしあなたがその人がなれる可能性のあるように扱えば、その人はその可能性を実現出来るようになる。」というゲーテの言葉で始まり、評価の任務のこなし方を具体的に説明された。柏クラブの丸田晶子さんと葵クラブの南谷みどりさんの通訳付きの、日英のワークショップであったが、大変スムーズに進行し、フロアからの意見も日英が飛び交い活発なやり取りが行われた。評価者は「直ぐに褒める、具体的に、前向きに、励ます」ことを、評価を受ける側は「聞く、心を開く、前向きになる、もう一度聞く」ことを心がける。評価者は耳と心で聞き、「良い、素晴らしい、卓越している」等の一般的な言葉ではなく、もっと具体的に、どこが何故どのように良かったのかを述べるという示唆が印象的であった。

具体的な評価の仕方についてはキャロル プレイス国際会長作成の教育資料「総評のための心得」を参考にして頂きたい。

教育セッション C　議事法「めちゃくちゃロバートを再び」

沖田　道子（ひろしま）

プログラムリーダー　小林　令（東京）

「議事法」と聞くと、何となく堅苦しい手順の羅列と拒否反応もある中、今回60余名の申し込み、会場は開始前から何やら期待感に包まれた雰囲気でした。沖田道子リーダーは事前に出席予定者個々にワークショップ資料を郵送配布され、出席者は目を通していたので、各自それぞれにその展開を楽しみに集まられたようでした。

議事法の目的と原則の基本説明のあと、事前配布の「例会スキット」が出席会員によって実演、それを元に各テーブルで、スキットの中の言葉は？正解は？疑問点はと活発なディスカッションが行われました。それらを踏まえて、沖田リーダーは、定足数の考え方、議事録に載せる或いは不要な事項、議長の正しい議事進行手順等々を解説、更に表決に於ける数の考え方の説明、加えてITC用語のビンゴから3名の「議事法と私」のショートスピーチ等々、リーダーのスピーディーで盛り沢山の内容と説明に、出席会員にとっては文字通り頭脳フル回転の75分間、沖田リーダーの目指した「議事法の意義を感じ、楽しい有意義な時間を全員と共有する」目的は十二分に果たされたワークショップでした。散会後の受講者からは、このワークショップの続編を沖田リーダーに期待される声も聞こえました。

教育セッション D　朗読を楽しみましょう「滑舌と技と心」

西阪　宣枝（京都）

プログラムリーダー　平井　典子（豊中）

会場に平家琵琶のびょうびょうたる音色が響きわたり、かたずをのむ参加者の前で西阪宣枝リーダーが朗々と「祇園精舎の鐘の音～」を詠み上げ、格調高く始まりました。テキスト《朗読を楽しみましょう【滑舌と技と心】》を開き、朗読の心構えとは「究極の一行または究極の一言を見つけて、そこへ全てをおいこむ」「寝そべっている文字を起こし」「相手を思いやって朗読する」の解説に目の覚める思いがいたします。

《ボイストレーニング・呼吸調整法》は、朗読の会「てんとうむし」の小谷貞子さん、井上暁子さん、中川愛子さん(京都クラブ)のデモンストレーション「くもの糸」に続いて、滑舌練習は全員が声を張り上げ、回ってきたマイクにも動ぜず当てられた方は必死の挑戦です。

声も出始め、いよいよ朗読実習となり、てんとうむしのメンバーが童話（兎と狸)、詩（笛吹き女)、早口言葉（ういろう売り）を、それぞれの作品を味わい豊かに読み上げました。

練習タイムの後、参加者はこの3つの中から希望の作品を選び、手を挙げて、前に出て実演です。希望者が多く、兎と狸も4名ずつのダブルキャスト、ういろう売りにいたっては2行ずつの朗読で横一列に発表者が並び、終了時間ぎりぎりまで全員が朗読を楽しみました。会員手作りのワークショップを存分に味わった教育セッションでした。

教育セッション E　古典から学ぶユーモア

上原紀美子（平安）

プログラムリーダー　米澤　良子（京都）

この教育セッションEの参加者は100名を超え、古典に対しての人気度が窺えた。上原紀美子リーダーは講演のはじめに、ユーモアを理解し創造するには、言葉の教養が必要とされ、また、人の行為、関わりについての深い洞察や世知の豊かさ、そして相手に対する思いやりが、上品でセンスあるユーモアを生み出すというユーモアの基本の説明があった。その後、古典におけるユーモアを感じる例文を、会場の一人一人に読んでもらい、講師自身の実生活を取り入れながら、上品に面白可笑しく解説し会場を沸かせた。

例文「徒然草」第135段「伊勢物語」等。

教育セッション2

教育セッション F　脳を知って、脳を活かす

池谷　裕二 氏

プログラムリーダー　板谷　洋子（瀬戸内）

脳という誰もがよく知っている筈の存在は、考えれば考えるほど解からなくなる存在です。若い頃にはあまり気にならなかった脳が、年々歳を取るほど主張しはじめ、最近は脳の事を抜きにしては暮らせなくなってきました。そのせいでしょうか今回の教育セッションFでは、定員245名を超える参加者で、とらえどころのない脳への関心の高さが共有されました。

東京大学大学院薬学系研究科　薬品作用学教室　准教授　池谷裕二氏による80分の講演は、「話術の魔法」に会場全体がかかったようで、あっという間に時間が過ぎ、「目からうろこ」が一枚一枚剥ぎ取られ、これまでの概念をすっかり変えられてしまったようです。私たちはこれまで、脳からの指令で行動を起こしているとばかり思っていたのですが、真逆で行動を起こすと、それを脳が観察して状態を判断してしまうので、やり始めない限りやる気は出ない。だから**“やる気のない時は身体で迎えに行け”**などは、妙に納得出来るフレーズでした。

また同じように別に楽しくなくても笑顔をつくるだけでも、「ドーパミン」系神経活動が変化し、愉しいから笑顔になるというより、笑顔をつくると楽しくなるという逆因果が、脳にはあると云う事です。作り笑顔をしていてもそれが本当の笑顔となり、笑顔は人に感染していく。**笑顔**はコミュニケーションにおける**最強の武器**です。この事はコミュニケーションを学ぶITC会員にとって、最初にマスターすべきツールではないでしょうか。不可解と思っていた脳が、単純明快な存在であると**知ること**こそが、「**脳を活かす**」ことに他ならないのです。

教育セッション G　討論会「騒乱の美：日本における宿命の女－真女児からナオミへ」

Mathew Thompson 氏

プログラムリーダー　信澤　昭子（柏）

今回リージョン大会初めての試みとして、外国人講師による英語での討論会が行われました。テーマは「騒乱の美：日本における宿命の女―真女児からナオミへ」です。真女児は上田秋成作「雨月物語第四巻・蛇性の淫」そしてナオミは谷崎潤一郎作「痴人の愛」の中で、その美貌を武器に男の人生を破滅させる、Femme Fatale・魔性の女として描かれています。

講師は上智大学教養学部助教授であり、近代初期の日本文学が専門で、特に義経伝説に造詣の深い Mathew Thompson 氏です。まず講師より自分がどのようにして日本文学に興味を持つようになったか、なぜ反道徳的な真女児やナオミをこの講座のテーマに取り上げたか等の説明があり、その後 6 人の討論者との討論になりました。各討論者からの意見はやはりこれらの女性への批判的意見が多く出されましたが、講師からは、文学作品を読む時には、いろいろな視点から見るとまた異なった側面が見えてくること、そして各作品にはいつもその時代の世相が写し出されていることなどのコメントがありました。今回の討論会は男を誑かす魔性の女という普段馴染みのないテーマと、またそれを英語で討論するという二重の難しさがありましたが、なんとか討論会という形に纏まりました。只、時間の都合で聴衆者の方々との意見交換が出来なかった点が残念でした。これを試金石として、今後もこのような英語によるセッションが企画されることを願っています。

教育セッション H　歌うことはコミュニケーション

Deborah Grow 氏

プログラムリーダー　深澤佳代子（神戸）

このワークショップではニューヨークで歌手・俳優としてご活躍されてきた Deborah Grow 氏が歌うことはコミュニケーションであり、音楽は心と心を結びつける力があると教えてくださいました。

先ず、最初に Deborah 氏がブロードウェイ・ミュージカルとディズニーのヒット曲を20分間にわたり歌われました。ジュリーアンドリュースを尊敬されていて彼女に尊敬の念をこめて歌われましたが、まさしくジュリーアンドリュースを思いおこさせるような透き通った感動的な声でうっとりする20分間でした。次に歌い方によっては様々な感情の表現ができ、音楽は人とのコミュニケーションにいろんな可能性を秘めて影響を与えるパワーがあることを話されました。最後に全員で Moon River と Sound of Music を歌い音楽によって人の心と身体を落ち着かせてくれることを実感しました。

Deborah 氏が作られた楽しい英語教材は赤ちゃんから子供達まで歌を聞きながら自然に英語を身につける事ができる教材です。ワークショップはすべて英語でされましたが歌を通して学ぶ事を感じさせられたワークショップでした。

音楽がもつパワー！　大会テーマの「宝さがし」がひとつできました。

教育セッション I　フラを通して学ぶ　ALOHAスピリット

石田由美子 氏

プログラムリーダー　船橋　俏子（阪神）

ハワイでの世界大会まであと1か月余りと言う時の「フラ」と「アロハ」は、ハワイを学ぶタイムリーな時間でした。まず「ALOHA」を知るために、ハワイの歴史や、フラの歴史を説明されました。アロハとは、愛です。Akahai（人には優しく） Lokahi（助け合って） Olu'oku（明るく） Ha'aha 'a（謙虚に） Ahonui'（辛抱強く）の頭文字から出来ています。

ハワイの8つの島とその位置、アメリカ合衆国唯一の王朝であったこと、1893年アメリカ合衆国に統合されるまでの人々の苦悩などを丁寧に話されました。第8代女王リリウオカラニが有名な「アロハオエ」を作詞作曲し人々に愛されていたこと、美味しいフルーツを求めてアメリカから沢山の人が来ていたこと、その動きを抑えようとカラカウア国王がカイウラニ王女と日本の皇族との縁談を申し入れていたことなど、大変興味深い話が続きました。1830年にフラが禁止され、1898年に無血状態でアメリカ国旗が掲揚されドール大統領が誕生しました。1963年にフラマスターと呼ばれたジョージ・オナペによりフラの全盛時代が始まり、日本でのフラ人口が約50万人とも言われている現在にいたります。

これらの説明の後、ベージュのロングフラドレスを着ておられた石田氏が「ハワイアロハ」を優雅で綺麗に1曲踊られました。

その後、全員で「フキラウソング」を見よう見まねで踊りました。体が暖かくなり、楽しい気持ちが広がり、笑顔で参加者も退場しました。

教育セッション J　今までになかった新しいクラブの作り方

Margaret Sutherland

プログラムリーダー　大池芙美子（イースト神戸）

参加者50名弱。このセッションの目的は、新しいタイプのクラブのチャーターの可能性を探ること。Margaret Sutherland リーダーの巧みな誘導と彼女の非常に柔軟な対応で、参加者全員リラックスしての活発な議論、意見発表があり、賑やかに会は進行した。

特に「どんな人達が私達の持っている技術スキルを必要としているか、それは何処で見つけることが出来るか」という議論の中で、面白い視点の意見も出た。例えば、多くの会員が趣味として、スポーツクラブその他のクラブに参加しているが、その仲間よりはむしろその指導者やコーチにITCを紹介し働きかける。多忙な医師なども特にコミュニケーション力を必要としているが、直接ではなく医師会にITCを説明紹介する等。可能性は至る所にある。

大事なことは、時代の要求するところは変化している、私達もそれに合わせて考え方、プログラムを柔軟に変える必要があるというのがリーダーの信念。勿論、基本は同じなので、例えば、そのタイトルを変更して“Issue of the Day”を“Headline News”にするだけでも若い世代、働く世代に近しいものになる。

最後に、今期チャーターの「新しいタイプ」のクラブ、バイリンガル西条クラブ（働く外国人、留学生）と花巻クラブ（働いている会員）の両会長によるチャーター経緯と今後の取り組みについての発表があったが、時間切れで、質問、アドバイスなどの時間がなかったのは少し残念であった。

スピーチコンテスト

第31期リージョンスピーチコンテスト委員長　**大原　慶子**

「宝さがし～Treasure Hunt～」のテーマで開催された第31回日本リージョンスピーチコンテストで皆さんはどんな「宝物」を見つけましたか？年々レベルアップするコンテスト、今回「英語」「日本語」ともに思わず時を忘れ聞き入ってしまうほど見事なコンテストでした。ひとつひとつの言葉から、それを語るお人柄と歩んでこられた人生から、お役の重さから、多くの「宝物」を手になさったことでしょう。心より感謝をこめて… ITC は「宝島」

日本語の部

プログラムリーダー　**伊藤　容子（東山）**

	氏　名（クラブ）	カテゴリー	論　題	題　目
1　位	永　嶋　順　子（九　州）	楽しませる	感謝	老い仕舞
2　位	廣　瀬　忠　子（阪　神）	情報を伝える	声	声もいろいろ
3　位	海老原　あかね（しらさぎ）	鼓舞する	愛でる	Nice Body ！

優勝者スピーチ（要約）

論題：感謝　　題目：老い仕舞

年の初めの１月、私は80歳になりました。この10年、特に月日が早く過ぎ去ったと感じるのは私の動きが遅くなっただけなのかも知れません。昨年の秋、高校の最後の同窓会に出席しましたが、60数年ぶりのお喋りは「お葬式ってやっぱり家族葬がいいわねえ。あなたお墓の準備は出来てるの？」「ええ、息子達に迷惑かけないように遺灰は空から振りまいてもらいたい」って。お喋りは大いに盛り上がりました。留守番の夫は今月15日90才になります。「もう老い仕舞を考えなくちゃね」

私達は15年前から自宅から少し離れた里山でカントリーライフを楽しんで来ました。原生林を拓き、バラを植え、コンサートを開催したり、無農薬野菜を栽培し、新鮮な空気を一杯吸って・・　自然に生かされながら、いつの間にか二人とも健康になっていました。でも、来年の今頃二人とも元気でいるとは限りません。今日が一番若いのです。「少し残念だけど15年間楽しんだのだからもういいね」老い仕舞の始めは、この山荘暮らしを閉じる事にしました。それに私の老化は加速を加えて進行中です。忘れ物は私の特技です。いつだったか捜していたお財布が冷蔵庫の野菜室から出てきました。ですから老い仕舞いなのです。でもこんな風に言って下さる方があるのです。

「貴女の脳を水の入ったバケツだとするでしょう。貴女は今、自分のバケツに穴が開いて、大事に溜めた水がどんどん流れて行くと嘆いているでしょう。でもそれがいいのよ。穴あきのバケツだから古く澱んだ水が減って、その代わり新鮮な水を注ぐことが出来るじゃないの」

なるほど。私の脳は穴あきバケツなのね。それなら、これから私なにが出来る？

お年寄りのための童話作り、聖書を毎日一節だけ読む。自宅の小さな温室で珍しい西洋野菜を育てる。一人旅をしてみたい。なんて・・どれも皆駄目なら、私がいる事でほっとした風が流れるような私でありたい。いつも感じる心を持ったおばあさんになれたら嬉しい。そして年をとったことを決していい訳には使わない。と肝に銘じて、老い仕舞いをしたら老いスタートの部屋へ行きます。ここでほんのひとかけらでも私自身を進化させたいのです。理想のお婆さん目指してこんな能天気なことを言っている幸せな私です。皆様に感謝。

英語の部

プログラムリーダー　小松利香子（しらさぎ・クリスタル神戸）

	氏　名（クラブ）	カテゴリー	論　題	題　目
1 位	バルク　良　子（神戸）	Persuade	Health	Healthful Living Is a Happy Life
2 位	田　中　雅　代（筑波）	Inspire	Nature	In Awe of Nature
3 位	川　嶋　久美子（梅田）	Inspire	Nature	The Unlimited Energy

優勝者スピーチ（要約）

Subject：Health（健康）

Title：Healthful Living Is a Happy Life（健康に生きることが幸せな人生）

The quality of a Happy Life is determined by our physical, mental, emotional and spiritual Health. I get up at 6:00 o'clock every morning and do the NHK Radio exercise. Since I am a school building caretaker, I go downstairs to open up classrooms, put on the air-conditioners, and open the gates to get ready for school. Physical exercise helps me to have a positive attitude to begin the day.

We are what we eat! So we should eat a well balanced meal. I go to the Axtos Sports' club for water walking and so on.

Mental health is also important for a happy life.

I shall never forget the fear and anxiety I experienced on Jan. 17, 1995. One month later a missionary pianist visited with a rescue team, and she started to play hymns. I suddenly started to weep. I cried and cried. Relief and assurance came from them.

This year I am on an emotional high because of our golden wedding anniversary.

We returned from a cruise in April and May for 17days.

I am for ITC members who have shared 40 years of my life.

Let's enjoy a Happy Life by living Healthfully!!

幸せな人生を過ごすかどうかは、身体、心、感情そして魂が健全かどうかで決まります。

私は毎朝6時に起きて、ラジオ体操をしたあと学校の教室を開けて、空調のスイッチを入れ、門を開けます。

このように体を動かすことで気持ちが前向きになります。

食事も大切にしています。そしてスポーツクラブに行って、体を鍛えています。

心の健康も大切だと思います。

私は阪神淡路大震災のときの恐怖と不安を忘れることができません。震災の1ヵ月後、ミッショナリーのピアニストが訪れ、賛美歌を弾いてくれました。それを聴いて私は泣き続けました。すると苦痛から開放され、前に進もうとする強い自信が湧いてきたのです。

今年は金婚式を迎えるので気持ちがとても高揚しています。4月から5月にかけて17日間のクルーズに行ってきました。さらにITCのメンバーになって40年になります。

みなさん、元気に幸せな人生を楽しみましょう！

ライティングコンテスト

ノンフィクション部門／Nonfiction

"My journey in life"

藤木　桂子（イースト神戸）

Three quarters of a century has already passed since I arrived in this world and I am now 76 years old.
'The passing days and months are eternal travelers in time. The years that come and go are travelers too. Life itself is a journey….'
The famous poet Matsuo Basho wrote in his 'A Haiku Journey'.
My foot prints on the sands of time in three quarters of a century may signify little, but if I missed this golden opportunity to write something about my journey in life, the next chance might not come until
I am 100 years old. Who knows whether I will be able to live that long.
There is no time like the present. Procrastination is the thief of time, as the proverb says. I hear myself saying, "Hurry up and start writing, Keiko! Time flies. It's time for you to stop procrastinating and get the job done!." My inner voice urges me to start writing.
I was born in August 1936, when the eleventh Olympic Games were being held in Berlin. About 10 days before my birth, Miss Hideko Maehata had won an Olympic gold medal in the swimming races. It was the first gold medal for the Japanese women, and all the Japanese, especially the women were very proud of our Miss Maehata being in the limelight. I was named after her laurel wreath. The first Chinese character "桂" in my name, "桂子", means "laurel." My parents must have had an earnest wish that their daughter should be a woman laureate, hoping Miss Maehata 's luck would rub off on me.
There was a rain of congratulations and my parents were very proud of their first child. My journey in life was off to a good start.
I grew up to be a girl and gently to a young woman. So far so good.
In April 1959, the whole country was greatly excited by the Royal Wedding of Crown Prince Akihito and Princess Michiko and people were fascinated by a grand congratulatory procession on TV.
A good looking young man made a proposal to me and in autumn in the same year, we got married dreaming of the bright future that lay before us. Luckily for me, I now had a good companion for my journey in life, so I was not a lonely traveler any more. How much better to travel with a good companion than to travel alone! I dreamed of a future full of happiness.
Next year, we were blessed with a baby girl and I looked forward to life ahead for our family of three. In 1964, the Olympic Games were held here in Tokyo and all the people in Japan were in high spirits.
Everything was running along very well.
I was too young and too innocent to think of all the problems that might occur in real life. I devoted myself to my family. In fact, I worked so hard at that, that in the end I found myself completely burned out, tired and bored, not interested in anything.
As time went by, my husband's mind was set on his work and my daughter was busy studying in Tokyo. I found my husband had become a workaholic and my daughter on whom I doted was already standing on her own feet. I noticed that our home had already become an empty nest and I myself a mere shell of a woman. I felt as if I was travelling alone. I was struggling with painful loneliness.
The big news that Neil Armstrong was the first human being to walk on the moon as commander of the Apollo 11 space flight on July 20, 1969 aroused me from my sunken spirits. I didn't want to look down any more, I wanted to look up to the vast expanse of the sky instead.
"Don't worry about such little things. In the daytime, the sun will be your travel companion and at night, the moonlight will light up the way you should take," said my inner voice. I was greatly encouraged.
The sun and the moon show no partiality. They give us a lot of courage energy, light and dreams equally to every one of us. Suddenly I hit on an idea. On a day when we had some carpenters working on our house, I had the courage to ask one of them to break through the ceiling and even the tiled roof of our dim kitchen so that the sun could get in through a skylight. After that, cooking, while bathing in the sunlight made me feel happy, and I found that there was no better medicine for loneliness than bathing in sunlight. I was surprised by my audacity to break through not only ceiling, but the tiled roof of our old house. It might have been my own Women's Liberation. Because there was a climate of Women's Lib all over America in the '70s, and it awoke me a lot. I didn't want to be stranded in the middle of my life's journey. I got over my difficulties. I could manage by myself.
What an insensitive woman I was at that time! I didn't pay any attention to what my husband and daughter were saying to me and therefore I couldn't appreciate the deep understanding they were showing toward me. I imagined that I had been suffering because they
were too busy to talk to me.
Struggling with the lack of conversation, I really wanted some good friends to talk to, not just to chatter away, but friends I could communicate with. One day, a friend of mine sent me a leaflet about ITC with a card saying that ITC would be just what I needed at that time. Thanks to my friend, I became a member of ITC and ever since, for more than 23 years, almost a quarter of a century, I have been a member of East Kobe Club and I find it suits me very well. I've learned how to enjoy conversation with all sorts of people, not to mention with my own family, using words, signs, eye-contact, etc.
In the year 2000, I was very excited about being able to experience the turn of the century. My journey in life was making the transition from the 20th century to the 21st. I was looking forward to some exciting meetings in the new century. Hope revived in me. I rose like a phoenix from the ashes. In 2009, Takane and I celebrated our golden wedding anniversary. We are getting older and feebler and my travel companion, my dearest husband is always besides me with his walking stick. He can not walk easily without my support. After his retirement, he has a lot of time on his hands, so now is the time for us to spend the rest of our days hand in hand.
In 2012, my dearest husband was hospitalized for four months and our bonds of affection became stronger than ever. I am ashamed to say that the oaths we solemnly made at our wedding ceremony had faded away. But now I began to understand them and to realize their full meaning. 'Love is always patient and kind…..There are three things that last: faith, hope and love; and the greatest of these is love.'
Things around us in the world have changed so rapidly, and especially space science and life science have greatly developed and recent technological advances have been developing at amazing speed.
Time flies. I don't know when my journey's end will come, but that is life. For life itself is a journey. Someday in the near future the time will come when everyone can enjoy space travel. How wonderful it will be to travel through space!
The clock on the wall has been ticking all the time I have been writing. It sounds as if it would hasten my steps, but I am travelling at my own pace leaving every footprint behind me.
The year of 2013 has started! After the New Year's holidays, my husband and I are still enjoying our journey looking on the bright side of life, so we look forward to spending this year actively and positively, faces brimming with smiles.

詩部門／Poetry

短　歌

辻坊　洋子（イースト神戸）

TANKA 1

As the big earthquake comes
Taking his fishing boat
Further into the sea
Following the legend
Only a fisherman by himself

TANKA 2

Waiting for the first grandbaby
To be born,
Time goes by quietly
Cherry blossoms are sparkling
Faintly outside

TANKA 3

The Corridor
Rising in the high tide
Sun light fading
into orange
Aki-no- Miyajima
(Aki-no-Miyajima is the World Anthem)

TANKA 4

Green sky
And yellow sea
Drawing pictures with my grandchild
Together in the living room
With the fall sunlight coming in

一首目	地震きて漁船を沖へ向かわせる古来漁師の教えにひとり 大地震の津波に沖へ船を出す古来漁師の教えにひとり（大地震は、おおない、と読む）
二首目	初孫の誕生待ちいる穏やかな日々に桜の淡く輝く
三首目	満潮の海に建つ回廊の朱が迫りくる安芸の宮島
四首目	空はみどり海はきいろのお絵描きを幼としばし小春の居間に（小春は、秋の日差し、のこと）

P.14 ライティングコンテスト要訳　藤木　桂子

人生は旅

この世に生を受けて四分の三世紀が過ぎ、今や私は76歳。‘月日は百代の過客にして行き交う年もまた旅人である。人生は旅である。’と松尾芭蕉は奥の細道で述べている。四分の三世紀を歩んで来た私の足跡は書き留める程の意味は無いかも知れないが、このチャンスを逃せば次は100歳。今しかない！

1936年８月、ベルリンオリンピックで前畑秀子選手が日本女子初の金メダルに輝き月桂冠を戴いた直後に私は生まれた。名誉ある月桂冠に因んで桂子と名付けられた。私の旅は幸先のよいスタートを切った。少女から乙女へ。これまでは順調だ。1959年４月、世紀の御成婚で国中が沸いた。その秋に私達は結婚した。人生の旅の道連れを得たのだ。女の子に恵まれ幸せな三人家族像を描いた。1964年東京オリンピックが開催され国中が興奮した。私は若過ぎて人生を甘くみてた。家族の為に全力で尽くし燃え尽きた。時が流れ、夫は仕事に娘は勉強に熱中した。家庭は空っぽの巣となり自身は孤独感と闘っていた。1969年７月20日アポロ11号でアームストロング船長が人類初月面に立ったというビッグニュースが私を目覚めさせた。これからは果てしく広がる空を見上げようと思った。昼間は太陽が旅の道連れ、夜は月光が進む道を照らしてくれる。太陽と月は分け隔てなく光を注いでくれる。勇気、やる気、夢を与えてくれる。名案が浮かんだ。薄暗い台所の天井と屋根を破って太陽の光が天窓を通して入ってくるようにした。自分の大胆さに驚いたが私なりのウーマンリブだった。1970年代アメリカではウーマンリブの風潮が顕著で私も目覚めた。人生の旅の半ばで立ち往生は嫌。独りで何とかやれると思い込んでいたが何と無神経な人間だったことか！夫や娘が示してくれていた深い理解や思いやりに全く気付かずにいたのだ。勝手に孤独感に苛まれてた。ITC にめぐり合いイースト神戸クラブの会員として四半世紀近くなる。家族との会話も弾むようになった。2000年には旅は世紀を跨いだ。2009年には金婚式を祝った。2012年、夫は入院し私は彼の杖となり二人の絆は一層強まった。とは言え結婚式で厳粛に立てた誓いは記憶の彼方に消えていたのだが：‘愛はいかなる時も寛容で慈悲にとみ・・’世界は急速に変化し宇宙科学や生命科学の分野は驚くべきスピードで進展した。私の旅はいつ終わるのか分らないがそれが人生。人生は旅。こうして筆を進めている間も壁の時計はカチカチと音を立て続ける。まるで旅の歩みを急かせているようだ。でも私は急がない。一歩づつ足跡を残しながら自分のペースで旅をする。2013年がスタートした！夫と私は相変わらず旅を続けてる。ものごとを良い方に、明るい方に捉えながらやる気と前向きな姿勢を友達にしてこの一年を互いに笑顔で過ごそうと思う。

大会風景

玄関　看板

エントランスのデコレーション

委員会の皆様　お疲れ様でした！

受付

コーディネーター　コ･コーディネーター

インフォメーション

ページ

リーフレット・広報展示

編集　展示

資料販売

派遣員資格確認

資格認証

選挙

東北支援企画

物品販売

ポスター

似顔絵

公式訪問者
Carol Preiss ITC 会長

小菅あけみ
リージョン会長

審議

歓迎挨拶

会員代表挨拶

新規クラブ
花巻・バイリンガル西条

スピーチコンテスト　英語の部

スピーチコンテスト　日本語の部

退任役員

ギャベル贈呈

就任役員

テーブルデコレーション

晩餐会お料理

第32期テーマ　次期役員・次期指名委員会

「スマートにITC」
"Sophisticated ITC"

次期役員

会長	今井京子	(No.2 イースト神戸)
次期会長	中島由美子	(No.3 芦屋・クリスタル神戸)
第一副会長	遠藤美与子	(No.5 堺東)
第二副会長	高木彬子	(No.4 ひろしま・安芸)
書記	黒柳美紀子	(No.1 千種)
会計	佐藤睦子	(No.4 岡山)

次期指名委員会

委員長	大野三恵子	(No.6 京都)
委員	豊川三千代	(No.5 城北)
委員	堀内廸子	(No.1 錦)

第32回　日本リージョン年次大会ご案内

大会テーマ「実り多く」"Be Fruitful"

開催日：2014年6月2日(月)、3日(火)、4日(水)
場　所：リーガロイヤルホテル(大阪)

東北支援企画「にがおえを描いてもらおう」

プログラム・教育委員　**永井由紀子（紀州）**

朝村由希さんのHAPPY似顔絵と東北支援をコラボしたら、楽しいプログラムになるかもしれないと思ったのが始まりでした。彼女は宮城の仮設住宅へ何度もボランティアに行ったこともあり、この申し出を快諾下さいました。それも交通費なしの協力です。先ず百枚を目標に事前予約で支援金を増やすアイディアはヒットでした。そして6月4日限りの似顔絵コーナーでは、10分間隔で予約を頂き、待つ事なくスムーズに進んだと思います。嬉しい！ありがとう！の言葉にお手伝いをした紀州クラブも忙しい中にも充実した時間でした。

結果として、似顔絵は合計で180枚（事前予約135枚当日45枚）制作し、寄付金4,000円を含めた支援金総額は76,000円でした。皆様ご協力ありがとうございました。

ITCニュース　シリーズNo.3

国際財務状況検討委員会報告

国際財務状況検討委員長　**今井　京子**

今期始めから活動してきました当委員会ですが、5月1日ITCキャロル・プレイス会長から全会員への文書により新たな展開となりました。

IMS－ITC Management Service（国際管理業務）請負の会社がニュジーランドからアメリカに変わりました。皆様ご承知の如く、アメリカ・ネバダ州ボルダー市のJ.D. Higley社が2013年8月1日から新しいIMSとなります。同社は30年以上ビジネスを続けている会社で、ITCのIMSを全て提供する会社です。社員のひとり、スウ・ヒグリーは14年の会員歴があると、今回キャロル・プレイス会長から伺いました。

契約は2年、さらに交渉で延長もあり得ます。契約金は毎月9,000US$、年額108,000US$現在の年会費の45%となっておりますので、大変な経費節減となります。

今期予算は赤字ですが、徐々に赤字は解消される予定です。

当委員会は設置時に、日本リージョン会員の最大関心事でありましたIMS/Website費用関係にのみ特化して調査をいたしましたが、その他の費用も、現在は大幅節減されています。

今後も国際財務の見守りをお願いいたします。

ショートコーストレーナー研修報告

プログラムリーダー　**葛谷美紀子（名城）**

年次大会一日目にはカウンスル運営研修会、TPPに続いて、午後4時30分から9時までショートコーストレーナー研修が行われました。参加人数は、フェローオブITC 5名、トレーナー12名、トレーナー志願者9名、見学者6名、計32名でした。

夕食までの時間は、トレーナー活動報告（大原、海老原、柴田、藤井、中島各トレーナー）、デモンストレーション（山口トレーナー）、トレーナーの条件説明（城戸トレーナー）と続きました。

夕食後に「課題」が渡され、1時間の準備（練習）の後、視覚補材としてパワーポイントを使用した志願者によるプレゼンテーションが行われました。

フェローオブITC 5名によって審査された結果発表が大会閉会前になされ、次の3名の方々がパスされました。難関突破、おめでとうございます！

河　原　眞治子さん（葵）
讃　井　良　子さん（岡崎）
烏　谷　まゆみさん（韮崎）

※トレーナーは組織内での経験（練習）を経て外部へのPR活動を目指します。

花巻クラブチャーター式典を終えて

花巻クラブ会長　**瀧　成子**

2013年１月22日、大寒の時期、岩手のほぼ中央の位置にある花巻に新規クラブとしてチャーターいたしました。

盛岡クラブ発足から20年目で、カウンスル No.8 の新クラブ誕生は東京セントラル以来とお聞きしました。

メンバーは男性１名を含めて合計８名（内 盛岡クラブ重複会員２名）です。全員が仕事を持ちながら、毎月の例会には夕方６時半から約２時間の間に、テーマを決めて試行錯誤を重ね、しかし、目標達成することに、新しい出会いを求めて楽しみながら、取り組んでおります。

花巻クラブの年間テーマは「出会い・・・そして成長へ」、スタートラインは皆いっしょです。まず「出会い」を大切に、そして徐々に成長へと進化していきたいという希望を持ちながら、毎月楽しみに集まっております。

花巻クラブを発足させた共通認識の目的は、次の５点です。

① 自分の思いを相手にキチンと良い印象を与えながら伝えるスピーチ。

② ６～８分の決められた時間内に相手に分かりやすく伝えられる技術の向上の取り組み。

③ 人前で魅力的な話をするために、表情や声の出し方、身振りや顔の表情まで、きめ細かく高感度を意識する。

④ 自信を持って分かりやすく考えを伝える、余裕を持って、豊かで、印象に残るようなスピーチ。

⑤ そして、評価は次回の励みになるように勇気付けられるように心強く。

６月の日本リージョン大会に初めて参加させていただきました。何事も経験ということで大いに刺激を受けました。今後は、新規会員導入を積極的に行い、岩手にもうひとつクラブを立ち上げたいという目標に向かって、会員一同気持ちをひとつにして取り組んで行きたいと思います。

どうか未熟な花巻クラブを、ご指導いただきますよう宜しくお願いいたします。

バイリンガル西条クラブチャーター式典

バイリンガル西条クラブ会長　**三浦　雅美**

東広島地域には留学生や一般の外国人が多く住み、彼らと交流しながらお世話をしている人達も沢山います。このような背景からバイリンガルクラブの増設を試み、高山敦子・乙野靖子両会員のご支援を得、２回ずつの説明会と暫定例会を経て４月28日のチャーター式典にこぎつけました。

式典は東広島市長始め４名の来賓、外国人ゲスト４名、リージョン役員ならびにゲストを含め総勢90名の参加を得ました。

今、ITC 活動には変化への対応が求められています。そこで従来の式典とは違った、簡素ながらも心暖まる式典になるように試みました。会場は東広島市から無料で借り、飲み物や飾り付けも質素にして会費を2000円に抑えました。当初参加者を50～60名と予想しておりましたので、会場が狭くて息苦しく感じられるのではないかと心配しましたが、何事もなく終わり、ほっとしました。

リージョン役員によるクラブ役員就任式・認証状授与式を終え、市長ならびに教育長から祝辞を頂き「東広島市は国際学術研究都市を目指しており、このようなバイリンガルクラブの誕生を歓迎する。」との言葉を頂戴しました。

インスピレーションで留学生会員のタイ　シャレンさんが、クラブの誕生を生まれたばかりの赤ちゃんにたとえ「これから毎日毎日学んで成長していきます。私も ITC で学べる機会を得て幸せです。」と述べました。

プログラムは、中矢礼美広島大学准教授が「言葉でつなぐ心と心－ちいさな幸せから世界平和まで－」と題してバイリンガルで講演され「コミュニケーションを成功させるためには、自分の気持を素直に言うことが大切です。」と話されました。また、姉妹クラブとして神戸クリスタルクラブから20名の会員が参加して下さり、お祝い謡曲「高砂」と朗読英語落語「天狗裁き」を演じて下さいました。謡曲の「高砂」は、厳かで、祝ってもらう会員達の歓び溢れる門出に相応しいものでした。バイリンガルで演じられた「天狗裁き」は会場を笑いの渦に巻き込み、楽しんで学べることを教えて頂きました。

式典は簡素な中にも厳粛で心暖まる雰囲気であったと多くの参加者からお褒めの言葉を頂き、変化への対応が一歩踏み出せたような気がします。また式典の様子は地元のケーブルテレビで一週間放映され、ITC の PR になり、今後の増員に繋がるのではと期待しています。

今後の課題の一つに留学生会員の帰国による退会問題がありますが、帰国後のフォローをしっかり行い、ITC の PR や本国での増員・増設活動に役立ってもらえるようにしたいと思います。また、新入留学生の勧誘にも協力してもらうつもりです。

インスピレーションで述べましたように、私達は生まれたばかりの赤ちゃんであると自覚し、毎日毎日学んで成長していきたいと思いますので、今後もご支援をよろしくお願い申し上げます。

カウンスル・クラブ情報

カウンスルNo.1

名城クラブ30周年記念特別例会を終えて

名城クラブ会長　**稲葉由利子**

2013年４月12日、名古屋東急ホテルにて名城クラブ30周年記念特別例会を開催いたしました。190名の参加者と共にお祝い出来ました事は大きな喜びであり、感謝でいっぱいです。

30年の歴史を刻んだ“今”の名城クラブをご披露したく、24名の会員を入会順に３グループに分けてプログラムを企画しました。ベテラン組は「口上」にて自己紹介を、中間組は各自が参加し印象に残ったプログラムを「映像」を使って紹介、新人組は新人の立場からクラブに対する思いと意気込みを「替え歌」で紹介しました。各グループは趣向を凝らし三様に表現し、ゲストの皆様には十分に我がクラブの雰囲気を味わっていただけたと思います。

節目の年に歴史を振り返りながら、準備を重ねる毎に会員の絆が深まりクラブが活性化されることが、記念例会開催の意義であることを改めて気づかされました。これからもお互いに刺激しあいながら楽しく学んでいきたいと思います。

飛騨のお正月

飛騨高山クラブ会長　**桑谷　弘子**

飛騨高山は天領としての伝統を脈々と受け継いでいる山間の小さな城下町です。江戸時代から、大晦日、お正月には無くてはならない“鰤”を富山から運んだ道、“鰤街道”の跡が今も残っています。そんな環境の中、クラブの新年例会は毎年、飛騨の伝統に沿って行っております。今年は、カウンスルNo.1の役員の皆様に加え、他クラブや一般のお客様にお出でいただく事になり、会員一同大奮起！　今に受け継がれている“鰤や煮イカ”中心のお正月の「ごっつお（ご馳走）」を紹介しながらのスピーチには、会員は昔を懐かしみ、お客様には珍しがられました。宴はカウンスル会長の乾杯で始まり、会員による“座付き”の舞。続いて、これも会員先導による飛騨独特の祝い唄“"めでた”の唱和で無礼講になり、座は和みました。和気藹々と宴は佳境に入り、有志や役員による格調高い？踊りやゲームに飛び入りもあり、童心に返り楽しみました。お客様から頂いた「良かったわ！」との感想や、この会がご縁で会員増に繋がった事は、クラブとして励みになるもので、嬉しい新年のスタートとなりました。

高山らしい地縁を生かした「団結と思いやり」が、飛騨高山クラブには存在すると感じております。

4月野外例会 高野山総持院へ

六甲クラブ第一副会長　**横山　末子**

麗らかな春の日差しに恵まれ、桜花爛漫の高野山細川家菩提寺総持院へ一泊旅行を致しました。高野山は平安の世、弘法大師空海上人により開山されて以来、あらゆる宗旨を越え、日本中の総菩提所として歴史を育み続けて参りました。総持院の門前に七堂大伽藍を控え、東は総本山金剛峯寺に隣接、背景に覚法親王御陵の山に恵まれた古刹です。今も尚、格式ある総持院の風格を保持しております。バス中でビジネスを済ませ、晩餐会はプログラムに展開。京都の料亭で修行された料理人の格調高い精進会席、若き修行僧の凛々しきお接待、“細川家のリサーチ”シルバー川柳を全員に配り、一同歓声の渦。田辺聖子著朗読劇“姥ざかり”に大笑い。そして“手品”と春の宴は盛り上がりました。翌朝6時より千古の長きに亘り法灯を保持し、大僧正、修行僧による法要に参列し、黎明の気に浸りました。その後、奥の院を散策し、歴史上名を馳せた人々の墓前に参拝。参加者28名は無事帰宅いたしました。

滑稽俳句協会会長 八木健先生をお迎えして

愛媛クラブ第二副会長　**松井　寿子**

松山は高浜虚子、正岡子規を生んだ地、松山では俳句の会も多くありますしとても盛んです。クラブでも年1回プログラムに取り入れていますが、今回は趣を変え八木健先生をお迎えしての勉強としました。日本リージョンから2名、カウンスルNo.2から会長他2名、計5名のゲストをお迎えし、俳句という「伊予の言葉」を楽しみました。松山には、大正時代に旧松山藩主の別邸として建立された「万翠荘」があります。この邸の入り口にある「坂の上の雲ミュージアム」の一室で開催し、60分という限られた時間ですが「伊予の言葉」を楽しみました。全員で思いつくまま季語を挙げ、何を想い、何を感じたかを述べ、俳句を作る手法を学んでゆきました。朝、起床し五七五で感じた事を呟いてみる術、誰もが楽しんで言葉を俳句にしてゆく。小冊子を拝見し乍ら新しい未知の言葉を楽しみ、全員明るく笑顔で発言！知の言葉の世界を楽しみました。

5月宝塚・三田クラブ合同例会

宝塚クラブ副会長　**山﨑　眞知**

五月晴れののどかな14日、三田の公会堂に「食を楽しむ（野草を使った料理）」のテーマの下、二つのクラブのメンバーが集まり5月例会を開催致しました。ビジネスは両会長の十分な準備や打ち合わせでスムーズに終了。プログラムは野草についてのレクチャーと、宝塚クラブは野草取りに、三田クラブはお料理作りにと2班に分かれ行動開始。会場近くの生きものに汚されていないきれいな野草を摘み、それを準備された野草に加え（雪の下、ぎぼし、のかんぞう、たんぽぽ等々）天ぷらや煮物など色々なお料理を皆で作りました。さすが熟年の主婦の集まりです。短い時間ながらも手際よく、できあがりも大変美味しく頂きました。とても楽しく有意義な例会でした。

PREM、プログラム・教育合同委員会の活動について

PREM 委員長　**佐伯　省吾**

カウンスル No.3 第32期 PREM、プログラム・教育合同委員会の方針として、社会に訴える、社会に必要とされる団体になる、いかに ITC の知名度を上げるか、を考え試行した 1 年でした。

第 1 回会合は薬師寺管主山田法胤師の講演、テーマ“命を考える”を一般公開で開催しました。大勢の外部参加者を迎え320名を超える会合となりました。参加者を募る為に 2 万枚のチラシを作成し、クラブ会員の動きの中で達成した成果でした。

第 2 回会合は、外部識者の意見を伺うべく各方面の教育関係者を 5 名お迎えし、会合全体の講評を頂きました。当日のプログラム、スピーチコンテストと第 2 回高校生スピーチコンテストの優勝者によるデモンストレーションの感想も伺いました。頂いた講評を纏め誌面後半に載せています。

第 3 回会合は、朗読のワークショップとパネルフォーラム「現在の教育を語る」と題して大学教授・准教授と私：PREM 委員長を交え男性 3 名が教育について多方向から語ります。

個人的な意見ですが、ITC は自己啓発によって個人個人の成長を目指すだけでなく、活動を通してどのように社会貢献や広く世界の平和に繋がっていくのかが大きな目的であり、そういう団体を目指すべきであると考えます。そのための個人のレベルアップ・自己啓発は大いに取り組まなければなりません。

カウンスル No.3 第32期 PREM、プログラム・教育合同委員会は、ITC をより多くの人に知って頂くようメディア・公共機関または個人のお誘い等試行して参りましたが、これからの課題を感じながらも活動を締めくくる時期となりました。

プログラム・教育委員長　**岡田　恭子**

初めての試みとして産官学外部識者 5 名にご参加頂き、【全体講評】として会合全般の意見感想などを頂きました。

1．会場準備　雰囲気について
- もてなしの心にあふれ、細かい所まで行き届いた準備がされていた。
- 全てに於いてシステマティックな構成と公式性の高さに好感を持った。
- エスコートを付けて頂き親切に説明下さった。ホテルとの連携・会場外の案内も良かった。
- 明るく広い空間でその中にも凜とした空気があった。

2．ビジネスについて
- 時間に正確で無駄なく印象的　・フォーマルな会合としての厳格さに重さを感じた。
- 発言者が“第一に、第二に”と前もって発言内容を想像させていたのは効果的。
- 進行がクレバーだと感心した。時間通りの進行を目指してのサインの音など気になる。

3．プログラム（スピーチコンテスト）
- 多くの方がこのような機会に触れられることを願う。
- 内容がもっと仕事や社会の内容が出てくることを望む。
- 堂々とお役目をこなされ、スピーカーはカテゴリーの中で論題・題目が上手に表現されスピーチのおもしろさを改めて感じた。
- 会場のリアクションが日本人離れして反応が良く、スピーカーも話しやすかったのではないか。
- 厳格なルールと明快な審査基準は他の大会で参考となる。
- ライトで制限時間を通知する方法は良いアイデアだ。

4．高校生スピーチデモンストレーション
- 圧巻だ。このような学生がいることを知ることが出来、とても嬉しい。
- 英語でのスピーチはネイティブスピーカーで聴き取る力が自分にはなく残念。しっかりしたスピーチが伝わってきて感心した。芦屋学園の方のスピーチは内容のみならずスピーチの話力に感心した。これだけのスピーチが出来る高校生がいることは素晴らしい。

5．その他
- どなたも発音がクリアで驚いた。ステージに立つ者全てに必要なことかも。

PREM活動「オープン例会」

福山クラブ会長　**斉田　久美**

今期、福山クラブは22名でスタートし、期末の目標は26名です。そこで会員増員を目的として5月にオープン例会を開催しました。PREM委員会がリーフレットの作成、地元の新聞に掲載依頼、友人・知人をお誘いした結果、15名の方にご参加頂きました。プログラムは、誰にでも楽しめる「Show & Tell～私のとっておき」です。思いの詰まった品物の話だけに大変盛り上がりました。お客様からは「素晴らしい会に参加させて頂き、只々驚いています」と上々の感想をいただきました。今後もオープン例会などをすることによって、多くの方にITCの活動を知ってもらうことが必要であると痛感しました。

「議事法」とクラブ相互訪問のすすめ

岡山クラブ会長　**川崎　邦子**

2013年4月例会では、ひろしまクラブの沖田道子さんに「議事法」の教育をして頂きました。まず「めちゃくちゃロバート岡山スタークラブ編」と題したスキットを会員が行い、質問の回答を皆で考えました。表決のコツを教えて頂き、「なるほど納得。目からうろこが落ちたわ。」という会員の声が聞かれました。「議事法ビンゴ」では「ビンゴ！」になった2名の会員がプレゼントを頂きました。「議事法」はなんだか難しいと考えがちですが、楽しく学ぶことができ、会場のあちこちで賑やかな笑い声が聞こえ、会員にも大変好評でした。

特筆すべきこととして、カウンスルNo.5城北クラブの皆さん（12名）がこの4月例会にご参加くださり、総勢41名で楽しく和やかに議事法の勉強をしました。2012年9月例会は、同クラブの豊川三千代さんに「文章構成」の教育をして頂き、スピーチコンテストには当クラブからお邪魔しました。またカウンスルNo.5堺東クラブとは「対面評価」というテーマに沿って相互訪問をさせて頂きました。クラブ相互訪問はクラブ同士のご縁が深まり、お互いのクラブの良さを知り、自クラブの向上に繋げることができる素晴らしい方法だと思います。皆様にもぜひおすすめいたします。

4月例会「チャリティ講演会＆お茶会」

岡山あくらクラブ会長　**川西　順子**

東日本大震災から2年半が経とうとしています。岡山あくらクラブは、震災直後には日本赤十字社へ、昨年度は岡山後楽園でチャリティ茶会を開催し、その会費を震災遺児への義捐金として寄付しました。今期、東北を巡る野外例会を行い、陸前高田などの被災地を訪れました。復興への取り組みは少しずつ進んではいましたがまだまだなのを実感しました。

今期は「チャリティ講演会＆お茶会」を岡山林原美術館をお借りして開催しました。美術館のロビーでお煎茶席を、お抹茶はお茶室で、館所蔵の掛け軸とお釜をお貸しいただき、お庭には床几を準備しました。林原美術館館長　谷一尚氏の講演と特別展示「姫ぎみたちのひな道具」についての学芸員さんのギャラリートーク。お茶菓子は東北から桜だんごを取り寄せました。晴天の春の日、美術館のお庭やお濠の美しい満開の桜も170名のお客様をお迎えしました。皆さまからの会費やご寄付は今年も全額東日本大震災復興へ寄付させていただく予定です。実際に東北を訪れ現地の方とお話し、その思いを胸に、「私たちが今できることをしよう！」という会員の優しさが詰まったお茶会でした。岡山あくらクラブの会員の絆はまた強くなりました。そして、このチャリティ茶会はこれからも続けていきます。遠くはニュージーランド、名古屋からお越しくださったすべてのお客様に心からの感謝を申し上げます。ありがとうございました。

「対面評価の教育と実践」に参加

堺東クラブ　**遠藤美与子**

堺東クラブとして初めて取り組む「対面評価」に評価者としてハラハラワクワクしながら参加しました。

指導者の岡山クラブ・村山紀子さんの教育資料で最初戸惑ったのが「スピーカー」と「対面評価者」との間で事前の打ち合わせと合意があってのみ行われるべきものであるということでした。スピーカーは日頃審査員や評価者に一方的に評価され、どのような審査や評価をされても受け止めます。しかし、対面評価ではスピーカーと評価者がお互いに自分の考えを伝え合うことが出来、質問することも出来ます。つまり論争ではなく議論するために対面評価を行うという説明があり、今回は、スピーチコンテストの「審査員採点用紙」にある22のチェック項目に注意しながらスピーチを聞いたあとですぐにスピーカーと対面をして評価し論議するのは至難の技なので、そこで事前にスピーカーから原稿を貰い、どんなところを評価してほしいかを聞いておくという方法で行われました。私はイメージとして皆の前でスピーチを聞いた直後に評価する様子を想像していましたが、事前に原稿を見ておけるのは気分的には楽でした。そしてスピーチコンテストの評価と異なりスピーカーにとっては公平だなと思いました。

① 聞くときの注意点　② 評価するときの留意点　③ 評価のポイント　④ 評価者の心がけ
⑤ スピーカーのプレゼンテーション力について教育を受け、岡山クラブの島村忍スピーカー、和田晴子対面評価者のデモンストレーションを見てびっくり。自然体のスピーチ、流れるように生き生きとした和やかな評価、お互いこういう感じでスピーチし、評価し、評価されたいと思いました。これは絶対にスピーチと評価の向上に繋がると思いました。何故なら事前の原稿チェックはお互いの考え方、表現力、人間性、生活環境を知ることが出来、お互いを尊重しながら疑問や意見を言い合い、改善方法を思いやりある言葉で伝えていく過程で文章力、評価力がつくことを実感しました。結果お互いを認め合うという信頼関係が出来上がりました。

当日はスピーカーのプレゼンテーション力、即ち「見た目」6項目、「聞いた目」3項目をチェックしましたが、これはスピーチに限らずステージに立つ表現者には必須事項です。今回クラブからは2人ずつ2ペアが実践しましたが仕事や趣味などでステージに立つ会員にとって常に意識すべき事でもあります。先に原稿を見ておくなんて・・・と最初感じたことは対面評価について全く認識不足であり、今回評価者になってみて何度かスピーカーと話し合ううちに相手の気持ちを冷静に理解でき、メッセージを深く受け止めることが出来るようになりました。

生き生きとITC

京都クラブPREM委員　**常田　道子**

リーフレットは、今までと違う新鮮なものを作り出そうということから、若い人たちを中心に、ベテランの会員をオブザーバーとして加えて始まりました。ITCに何を求めて入会し、何を得たかその思いがきっと紙面に表されるでしょうと期待しました。新旧の会員は伸び伸びと語りあい、形にし、若い人たちは親愛の雰囲気の中であっという間にITCの本質をつかみました。それは和やかで楽しく素敵な時間をもたらしたのです。そしてITC会長賞という栄誉をうける望外の幸せも頂きました。協力の力の大きさを感じています。

1月には村上和雄先生の講演会を持ちました。密度の濃い講演は、クラブ例会としては異例の85人のゲストを迎えて、満ち足りた例会でした。毎例会よく練られたプログラムで、出演者は相当な準備を求められ、結構忙しくて楽しい思いをしています。

今期“初挑戦”しました。

奈良クラブ第一副会長　**中尾　光子**

例会前の5分間の静寂時間を利用して“ちょっと聴いてください！”と各自練習した朗読を1人ずつ読む機会を作りました。その成果を5月例会で全員プログラムにて朗読を発表。詩、英語の詩、ポエム、絵本、落語、川柳、短編小説、歌等はくじ引きで決めました。本や必要時間は自分で選びバラエティーに富んだ内容になりました。

今期は出来るだけメンバーの自主性を尊重“伸ばそう、個性を”とし、毎月プログラムのテーマは決めますが、各自の発想に任せました。そのために常に2か月前から準備が必要になり大変でしたが、達成感は充分感じられました。特に14名という少人数だからこそ出来た思いっきり楽しんだプログラムだったと思います。

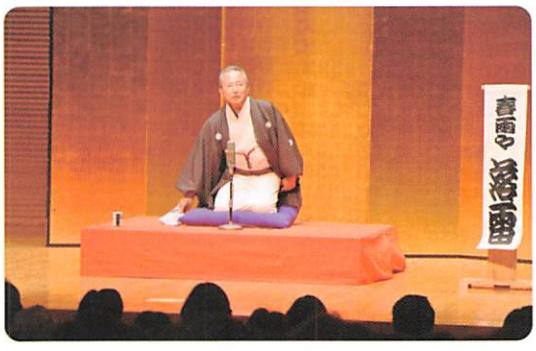
リーフレットコンテストで賞をいただいて

琵琶湖クラブPREM委員　**園　仁美**

今期のリージョンリーフレットコンテストに於いて、琵琶湖クラブは「よく分かるで賞」を頂きました。このリーフレットの作成にあたり、委員会で個性を出すのが良いか、分かり易く簡潔にまとめるか、等々意見を出し合いました。そこで参考にさせて頂いたのが、リージョン公式パンフレットでした。このパンフレットは明瞭簡潔にITC概要が盛り込まれています。そこに琵琶湖クラブ独自のITC効果を加え、表紙には琵琶湖を描き、親しみを持って頂ける様に全体的にブルーの色で統一したりと特色を工夫致しました。賞を頂いたこのリーフレットによって充実したクラブ運営に繋がる事を期待したいです。

「ITCのつどい」

第二副会長／PREM 委員長　**小倉　恵子**



PREM 活動の一環として公共施設で初めての「ITC のつどい」を一般公開で開催しました。会員減少傾向の中にあって、何とかしなければという思いがあり、外部の方に ITC を知っていただき、理解していただくことを目的に、また会員の親睦もかねての開催となりました。会員75名、一般約200名が集いました。

タイトルは、一般の方が親近感をもって参加しやすい落語と、日頃の ITC の訓練の中から「今日の話題」と合わせて、“笑いとコミュニケーション”としました。落語家は、医学博士で、昨年真打になられた松江市在住の春雨や落雷師匠でした。古典落語といきいき医学講話に会場から笑いがあふれ、その後の即興スピーチは一般参加者の発言もあり、和やかにコミュニケーションが図られました。この模様はケーブルテレビで放映され、カウンスルホームページに掲載しました。今回の「つどい」は、一般の方との初めての交流の場となり、ITC を PR する目的も果たせたように思います。今回のような外部へ向けての PREM 活動は、形や方法は変えても継続していくことの大切さと必要性を感じました。

「ITC のつどい」を終えた今、一人でも多くの新入会員をお迎えできることを願うばかりです。

「ピアノコンサート」

第一副会長／プログラム・教育委員長　**下手　泰子**

第 2 回会合では、メインイベントのスピーチコンテストの後に「ピアノコンサート」を行いました。ヨーロッパで長くプロとして活躍されていた出雲クラブの鈴木務津美会員の情感溢れる演奏に暫し酔いしれました。演奏の合間には、鈴木会員の「ワンポイント教育」もあり楽しいひと時でした。コンサートの最後には“東日本大震災復興支援ソング～花は咲く”をプログラム・教育委員と有志の会員の合唱団のリードにより全員で歌いました。チャーターした花巻クラブと、東北の皆様に想いをこめた温かな歌声が会場に響きました。

カウンスルNo.8

今期のテーマを振り返って

カウンスルNo.8会長　**柴田　ひさ**

「今、ここに心を込めて」いよいよ纏めの時期に向かっています。国際のテーマ「あなた自らが変化の主体に」、リージョンのテーマ「失敗から学ぶ」を視野に入れ、会員各自が今、自分が居る所で出来る事を先ずやってみようというのが出発点でした。カウンスル内のあちらこちらでチームワークが進行中を実感します。目標会員数150にはもう一息というところです。数字の上では各クラブにあと一名加われば軽く超えられる数ではあります。常日頃の会員活動が数として反映するには時間を要しますから、急かず、諦めずというのが正解でしょう。毎月の例会に必ず一人はゲストをお招きするという地味な取り組みは価値ある試みと確信します。

カウンスルのスピーチコンテストはクラブを勝ち抜いて来たコンテスタントによるレベルの高いものです。これを内輪に留めておくのは誠にもったいない事だと感じていました。外部に対しては前もっての予約やら制約が多く、ゲストにお声かけしにくい部分がありました。そこで今回、半日、後半のコンテストのみのゲストは無料として予約締め切り後も受付けました。当日は生憎の天気予報で「不要不急の外出は控えましょう。交通機関が動かなくなる恐れもあります。」でしたから、その成果をはっきり示すことは出来ませんでしたが、これからも続けたい姿勢です。現に、ゲストの入会者もあり嬉しいことでした。又外部からのコンテスト審査員の方々が、今期テーマを評価のコメントで言及下さったことは励みとなりました。

リージョン大会が開催される当カウンスルは次期への引継ぎ前の大仕事の渦中です。カウンスル内には30年を迎える筑波クラブ、25年を迎えるサンデークラブ、東葛クラブがあります。何れもクラブの特色を活かしつつ活動を続けています。リージョン大会二日目の教育セッションでは「今までになかった新しいクラブの作り方」のプログラムが予定されています。この部会へ全国津々浦々から様々な意見の会員達がどんなアイディアを持って集まるのか興味津々です。

「失敗から学ぶ」は例に事欠きません。リージョン会長と共に企画した地域の連続講座は回数、値段、冬の夜間という条件の中、流れました。そこから学び、異なる公共施設にボランティア講師登録を済ませたところです。こちらからは、館長が詳しい話を聴きたいとのお返事があり、今後どう進むか楽しみです。

今期のリージョン会報はこれまでITCを御存じなくて、今回、興味と関心を示して下さった方々に広く読んで頂くことが出来ました。入会者もその中のお一人であり、情報の届け方、受け止め方は千差万別であると痛感します。エレベータートークを忘れず、可能性の種蒔きを続けたいものです。新会員はいつも宝物の持ち主であることには間違いありませんから。

追悼　心よりご冥福をお祈り申し上げます

Lilian Morton を偲んで（元 ITC 会長）2013.5.5 逝去

阪神クラブ　野田　絢子

リリアンは、カナダの美しい小島・VICTORIA ISLAND のご出身で1996～1997度の国際会長でした。第14期江藤万里子日本リージョン会長の折、公式訪問者として来日なさり、１週間程滞在なさいました。ほっそりと背の高いハンサムウーマンの素敵な方でした。奈良クラブのご接待で、大会前に着物を着たいと言うご希望だったので、美しい猿沢の池の畔で、着物を着せて頂き大はしゃぎ・・・・楽しい思い出作りが出来たことを懐かしく思い出します。日本にいらっしゃるなり、「アヤ、私はくらげとタコとうなぎは、食べないからね・・・」と宣言されたにも拘わらず、ホテルで出た幕の内弁当の中にくらげの御酢の物・たこのやわらか煮・鰻巻が入っていたのに・・・おいしそうに完食。「リリアン今あなたは、クラゲもタコも鰻も全部召し上がったわよ」と申し上げたら、お顔はひきつっていても・・・大笑いでした。

強烈なもう一つの思い出は、グラスゴーのコンベンションでモートン会長から「1999年度のコンベンションを日本で行う」と会議中に突然宣言されたことでした。そのうちに・・・とは覚悟していたものの、そんなすぐ？と日本リージョン会長に就任したばかりの私と次期会長の三宮さんとびっくり仰天して彼女の元へ飛んで行ったものでした。思い出は尽きませんが、リリアン！どうぞ天国で安らかにおねむり下さい。

石本美知子さんを想う（No.5 大阪クラブ・元リージョン会長）2013.1.25 逝去

大阪クラブ　早川　住江

「私は元気やから」と暦年齢などはまるで無視するように、文字通りの元気印！実際、第25期日本リージョン会長の時も、歴代会長の中で最高齢ながら、激務をこなし、パソコンも極め、立派に責任を果たして面目躍如たるものでした。旺盛な好奇心と並々ならぬ努力、そして何より大胆さと緻密さを併せ持った頭脳には、教わることがたくさんありました。人生の先輩として、またお互いに男ばかりの子供の親として、子育てのたくさんの場面でいろいろ教えられたことは、今も豊かな経験として心に残っております。ともすれば独善的に突っ走る私に、他の人の意見や都合も聞くようになどの忠告は、これぞ真の友情と感じ入ったことでした。

それにしてもなんと仲のよろしいこと！　いつも『ママ・ママ』と甘えていらしたご主人様が、さびしくなってお呼びになったのでしょうか。

仲の良いお二人のご冥福をお祈り申し上げつつ。感謝をこめて。

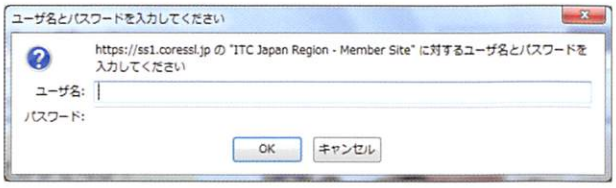
福田麻由香さん（No.6 京都クラブ）2013.3.5 逝去
横山　幸子さん（No.5 堺東クラブ）2013.4.5 逝去
田渕　雅子さん（No.4 安芸クラブ）2013.5.8 逝去

ウェブサイトへのアクセス

① http://www.itcjr.jp/ または http://itcjr.jp/ をクリックします。

② 会員ログイン をクリックする。

③ ユーザー名に会員番号、パスワードに会員の姓のローマ字を半角小文字で入力しOKをクリックする。



リージョンのサーバー利用について

現在までに 8 カウンスルと17クラブのサイト設定をしました。
既にウェブサイトを移設、開設されたサイトと準備中のサイトがあります。

URLは　**http://○○○.itcjr.jp/**　となり、

○○○にはカウンスル名（例：coucil1）、クラブ名（例：nagoya）が入りますので、
他カウンスル、他クラブのウェブサイトを見る場合は、わかりやすいURLとなります。

このサーバー利用というのは、リージョンがレンタルサーバー会社の役目を行い、カウンスル、クラブに無料でサーバーを貸し出すことです。カウンスル、クラブはそれぞれ独立したウェブサイトを開設し利用することができますので、希望されるクラブはコンピュータ部までご連絡ください。

編集後記

今期編集は、役員会、委員会の活動状況を正確に伝え、会員全体が共有する年間記録の作成、年間を通じて一貫した基準を持つの活動指針の下、スタッフと共に心を一つにして活動して参りました。ここに、今期最後の会報３号を発刊する事ができ感激で一杯です。この頃特に思うのですが、毎朝パソコンをスタートさせメールを開く。不思議にワクワクするのです。パソコンは無機質なものであるはずなのにそこに展開する世界は知的で心優しく思いやりに満ち、良質なコミュニケーションの心に満ちているのです。ITC の素晴らしさを溢れるばかりに日々頂きました事、ありがたくお礼申し上げます。今後は、大きく大きく膨らんだ私の宝物の袋を皆様にもおすそ分けできるよう心がけます。会報誌に関しての皆様からのご意見をお待ちしています。　住田実寧子

編集として会員の皆様に何を伝えるのか、会員の皆様は何を知りたいか、知ってほしいのか、いろいろなことを模索し、創り上げることの楽しさを実感させていただきました。住田編集者のもと、何度も顔をつきあわせて編集会議を開いたことも楽しい思い出です。小菅会長、寄稿くださった方々、読んでくださった方々、そして編集の同志達、すべての方に感謝いたします。有難うございました。　秦野　順子

ようやくゴールを迎える安堵感と、もう終わってしまう寂しさとを感じています。とても充実した一年でした。多くの方と知り合えたことが私の宝物です。皆様、本当にありがとうございました。　野口美智枝

『返事はハイ』と元気よくスタートしたものの、諸先輩方のスピードに歯が立たないという‘もどかしさ’を久々に味わいました。これが成長の糧と思います。編集会議は優しさと暖かさでいっぱいでした。真摯に仕事に取り組む姿勢を学ばせて頂いた貴重な一年間でした。ありがとうございました。　大津　理恵

ITC 日本リージョン会報　Vol.31／No.3
編集・発行：第31期 ITC 日本リージョン
印刷：上野タイプ印刷㈱

ITC　Pledge
ITC　宣誓

We, as members of International Training in Communication, hereby pledge to improve our communication and leadership skills, in order to achieve greater understanding throughout the world.

我々インターナショナルトレーニング　イン　コミュニケーションのメンバーは、世界中の相互理解促進のために、コミュニケーション技術と指導力の向上に努めることをここに誓います。

2012-2013

ITC日本リージョン声明文
Mission Statement of Japan Region

ITC日本リージョンの使命は、ITCの目的とするコミュニケーション技術と組織運営の技術を習得する機会を会員に提供してリーダーシップをそなえた社会人を養成し社会に貢献することにある。

The mission of ITC Japan Region is to present the members opportunities for quality training in communication and leadership skills which are the purposes of International Training in Communication and benefit the society by providing mature individuals.

http://www.itcjr.jp/